

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターあゆむ いいで (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年1月24日		～ 令和7年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和7年1月24日		～ 令和7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども達の思いに添った支援を第一に考え対応している。	・子ども達の思いを代弁し、注意したり否定したりという空間を作らないことを心掛けている。	・支援の方向性を一定に保ち、個別支援計画を基本に支援の組み立てをしっかりと充実させ保護者にも伝える。
2	・子どもそれぞれのステージにおける適切な支援や保護者への声掛け等がなされている。	・その子に合った声掛けをしたり好きな遊びに着目し提供したりしている。	・子ども達ひとりひとりの特性を理解し、必要な支援は何かを常に語り合う。
3	・事業所の適切な広さ、清潔感、給食の美味しさ等、目に見えるハード面の充実がある。	・子ども達が欲しているものは何か、必要なものは何かを常に検討課題としている。	・アンケート結果を大切に読み込み参考にしながら今の取り組みを継続する。 ・多職種連携を基本として支援を展開する。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・お迎え時の引き渡しに事業所側の準備が整わない時がある。	・連絡帳記載の情報量の多さや事業所側から伝えたいことの多さがある。	・連絡帳記載方法の工夫や内容の精選等、事業所側でできることも多いため工夫を加える。
2	・法人のホームページを活用できていない。	・操作性等の課題が多く、今後検討課題と考えている。	・代替方法として定期的なお便りを発信し玄関先にも掲示する。
3	・支援プログラム、児童発達支援ガイドラインの周知が適切にできていない。	・支援プログラムは令和6年度内に法人あゆむのホームページで公開予定。 ・ガイドラインについては職員間で再度共有する。	・支援プログラムについては、モニタリング等を活用し保護者にお知らせする。